
新説 浦島太郎 <乙姫サイド>

長谷流輔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新説 浦島太郎 > 乙姫サイド <

【Nコード】

N3864K

【作者名】

長谷流輔

【あらすじ】

勉強していると掃除したくなる心理のように、連載ほつといて短編書きました。おとぎ話「浦島太郎」を竜宮城からの視点で書いたお話です。関係ないけど、巨人の阿部慎之助はウミガメっばいよね。

竜宮城では婿にすべき男を捜していた。

竜宮城は、伝説の沈んだ大陸「ムー大陸」であり、元々あった素晴らしい科学力で、大陸が沈んでも深い水の中で暮らすことができず。ただ、生き残った者が少なかったため、どうしても王家は近親での結婚になりがちだった。病弱な子ばかりが生まれてきたり、障害を持った子が生まれたりとその弊害は無視できない物になってきていた。若くして亡くなる者が多くなり、血統が危うくなってきた。ついにムー大陸では大会議が行われ、その結果王家に他の血を入れることが承認された。ただし、条件として清い血を持つ者に限定された。

ある日、男前で心優しく、かつ清い血を持つ浦島太郎を見つけた。乙姫はその姿を見て、すぐに亀を呼んだ。

「あの方を連れて参れ！」

浦島太郎に釣られた振りをして、巧みに竜宮城に招き入れる亀。

その後、浦島を虜にするために様々なもてなしをした。浦島はたいそうこの場所を気に入った。そしてまもなく乙姫と恋仲になっていった。

「君とずっとここで暮らしたい。」

そうして二人は永遠の愛を誓い合った。

それから、三年の月日が経った。

浦島は、置いてきた両親が気になり始め、望郷の念に駆られた。

「帰らしてもらえないだろうか？」

そう言う浦島に乙姫は断固拒否した。それでも帰りたいたいと言う浦島に、乙姫は裏切られたと感じた。とりあえず帰ることを了承したが、代わりに条件を出すことにした。

その条件は、「玉手箱を持って行く事、しかし決して開けてはならないこと」「竜宮城のことは誰にも言わないこと」の二つだった。乙姫はそこに罫を仕組んでいた。

浦島を地上へ送り届ける亀に、気づかれないようにタイムマシンで数十年後の未来に行くように命令した。さらに玉手箱には「那由^{なゆ}他の絶望」というムー大陸の大量殺戮兵器が詰め込まれていた。

乙姫は嫉妬心から浦島が「ちゃんと帰ってくるから」という言葉をすでに信用しておらず、竜宮城の情報の漏洩を防ぐために浦島の故郷の時代を変えた。さらに「開けるな」と言う約束を乙姫の事を裏切るつもりであれば必ず開けるだろうと思い、玉手箱を渡したのだ。

心の底では、浦島のことを信用したかった。彼の事を本当に愛していたからだ。

しかし、事態は思わぬ方向に進む。

時代が変わったことで、浦島は混乱してしまい、さらに両親や親友を亡くしたことで、絶望した。そしてやけになり、これだけが最後の望みと思い、玉手箱を開けてしまう。

次の瞬間、地上は地獄と化した。

その様子を竜宮城からモニターしていた乙姫は、最愛の者を亡くし泣き崩れるのであった。

(後書き)

後書き：これってファンフィクション扱いで良いのだろうか？と小
一時間考えました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3864k/>

新説 浦島太郎 <乙姫サイド>

2010年10月8日22時57分発行